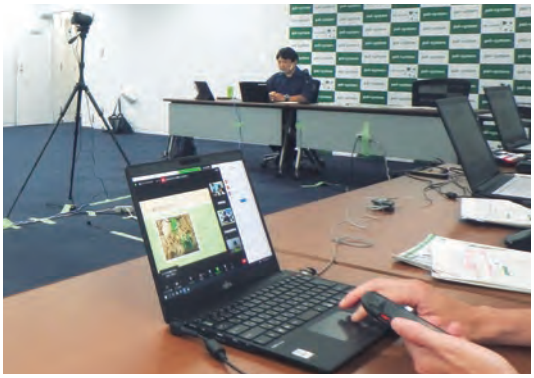
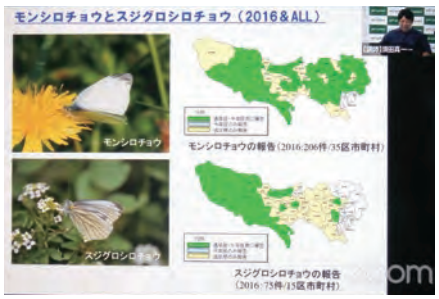
環境活動に関する報告書2022

2021年4月～2022年3月活動報告

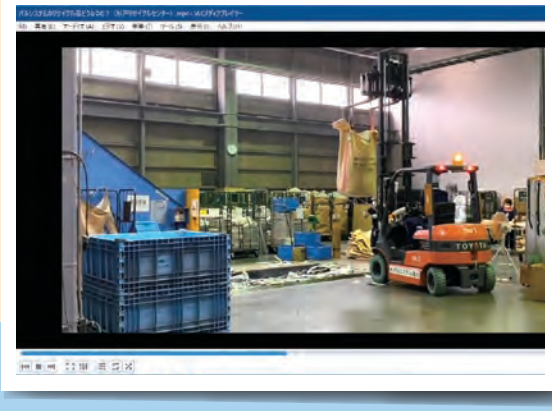




6月 "昆虫一家"の2代目に聞く
～世界的に生き物が豊かな大都市・東京の今～



8月 パルシステムに出すリサイクル品はどうなるの？
～杉戸リサイクルセンターオンライン見学会～





10月 「いなぎめぐみの里山オンライン散策（1部）」



10月 「リモート竹食器作り体験（2部）」

2021年度はオンラインを活用した取り組みを複数開催しました。

生活協同組合 パルシステム東京

ごあいさつ



生活協同組合 パルシステム東京
専務理事　杉原　学

2021年度は、２年以上続く、新型コロナウイルス感染症の繰り返される感染の再拡大に振り回される環境となりました。事業の実績は、年間を通して組合員の多くの利用に支えられ計画を大幅に上回りました。活動においても長期にわたり、あらゆることが制限される状況下でしたが、徐々に対面での参集や企画等も再開し始めました。その中で、コロナ禍により一気に進んだオンライン化の対応は、スマートフォンを使用した依頼書の電子化、タブレットの貸し出し、組合員活動における電子化検証モニター等、委員の負担軽減も含めたペーパーレス化に向けた取り組みの検証もすすみました。

再生可能エネルギーの普及は、新規契約は2,681件（予算比120.5%）、保有件数16,194件となり、再生可能エネルギー比率は83.2%と高い実績となりました。しかし、2022年の年明け以降、日本国内のみならず、世界的な原油価格の高騰等の影響により、電気を始めとするエネルギーコストが急激に上昇しました。今後もさらなる電力市場の悪化が懸念され、これまで取り組みをすすめてきた再生可能エネルギーの維持継続は重要な課題となっています。

プラスチック削減は、パルシステムグループ全体で取り組みを強化しました。新たに68品目にて容器包材を切り替え、「プラ削減マーク」の商品は323商品まで広がりました。特に組合員の要望から、青果包材の材質や厚さを改善、現在も段階的に包材の切り替えをすすめています。2022年８月からは、お料理セットのトレーをリサイクル可能な紙トレーへ切り替える予定です。また、商品包材のみならず、組合員へのお届けの際に使用している物流資材についても環境にやさしい材質への切り替えに取り組みました。今後もプラスチックの削減と３Rの推進に取り組んでいきます。

パルシステムグループでは2050年の脱炭素社会に向けて、2022年12月を目標に「エネルギー政策」「環境政策」の見直し論議をすすめていきます。当組合においても、この検討と連動し、「エネルギー政策」「環境方針」の見直しをすすめています。引き続き、2022年度もＳＤＧｓをはじめ、環境保全や持続可能な社会づくりに向けて取り組んでいきます。

〈組織概要〉

名　　称	生活協同組合パルシステム東京
設　　立	1970年4月1日
理 事 長	松野　玲子
専務理事	杉原　学
本部事務所	東京都新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
事業エリア	東京都全域（島しょを除く）
配送センター	17箇所
福祉事業所	14箇所
保 育 園	２箇所
職 員 数	1,833名 （正規職員：464名 ／ 専門職員：192名 ／ 定時職員：1,177名）
総事業高	891億2135万円
組合員数	52万3,596人

（2022年3月末現在）

CONTENTS

1　ごあいさつ・組織概要
2　パルシステム東京環境方針
3　事業と環境活動
4　事業活動における資源の使用と排出物
5　組合員との約束
6　パルシステム東京エネルギー政策
7～10　エネルギー政策の推進
11～12　石けん利用普及
13～14　有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた３R活動の推進
15　生物多様性保全と森林保全
16～18　事業活動における資源の使用と排出の状況
19　リユース・リサイクル商品一覧
20　パルシステムグループの「プラスチック排出総量削減」の取り組み
21～22　2021年度環境関連広報物一覧
23～26　2021年度環境活動に関する監査所見

パルシステム東京環境方針

理念

パルシステム東京は
「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」
を基本理念とします。

環境に対しての基本姿勢

パルシステム東京は、理念に沿って組合員への商品・サービスの供給や、消費者の視点から様々な社会的課題の改善に向けた運動を展開しています。
2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の環境や人への影響、地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少など環境問題が深刻化する中、パルシステム東京の社会的責任として再生可能エネルギーの拡大、脱原発社会に向けた取り組みの実施、国内環境保全型農業の推進や環境配慮商品の開発と利用普及、事業・サービスに伴う環境負荷低減、省エネ活動を含めた組合員とくらし方の見直し活動をすすめることであると認識し、以下の環境活動に取り組みます。
なおこれらの活動を進めるにあたり環境影響を評価したうえで技術的・経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境汚染の防止や環境マネジメントシステムの継続的改善をはかります。
また環境側面に関わる法律、規制、条例及びその他の受入を決めた要求事項を順守します。

(1) 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。
(2) 脱原発社会実現の為の運動に取り組みます。
(3) CO_2排出総量の削減に取り組みます。
(4) くらし方の見直し運動を組合員参加で広げます。
(5) 資源循環型社会を目指した活動を進めます。
(6) 環境に配慮した商品づくりと普及に取り組みます。
(7) 森林を守る運動を進めます。
(8) 生物多様性の保全に取り組みます。
(9) 日本の食料自給率向上に取り組みます。



以上の活動をすすめるため、全役職員が環境方針を理解し、行動できるよう周知徹底をはかります。
環境方針は、パルシステム東京内外に広く開示します。

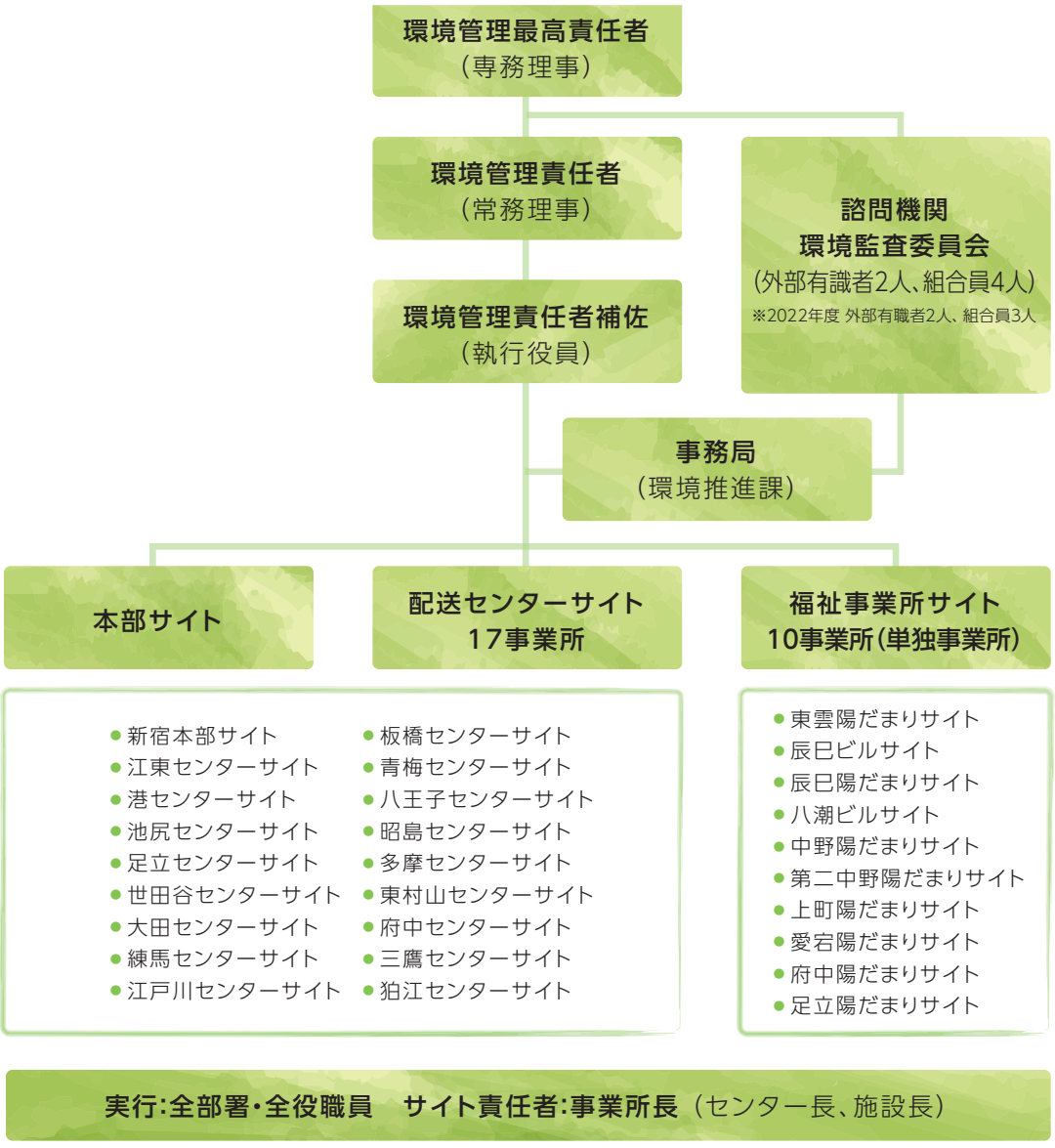
1999年10月28日　制定
2013年　4月　1日　改定
2017年　6月　1日　改定

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　杉原　学

事業と環境活動

環境マネジメントの推進体制

パルシステム東京は、次世代へつなぐ持続可能な社会を作るため、環境方針に沿って目標を設定し、エネルギーや資源を節約し、CO_2や廃棄物の削減に取り組んでいます。
環境活動の評価は専務理事の諮問機関「環境監査委員会」（組合員、有識者で構成）で、年4回実施しています。（環境監査委員の所見は23〜26ページ）



事業活動における資源の使用と排出物

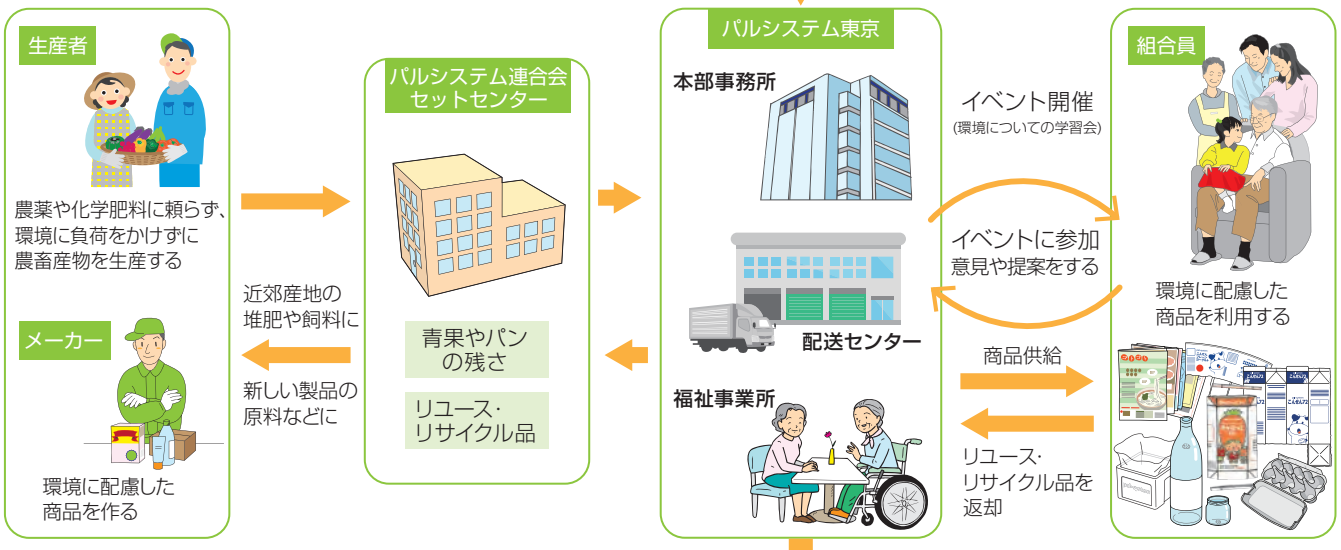
パルシステム東京は、さまざまな資源を使いながら事業活動を行っています。
組合員宅へ商品をお届けする為の配送トラックの車両燃料や、冷凍商品を安全にお届けするためのドライアイスの使用、各事業所で使用する電気や水、OA用紙などが該当します。

2021年度はCO_2排出量が前年比86%となりました。新たに第2中野陽だまりの照明をLEDに切り替え、全事業所のLED照明への変更が完了したことなどが削減要因となりました。他にも長期的に削減を進められるように、CO_2冷媒装置の設置や電力マネージャーの実験的な設置など、短期的ではなく先を見据えた実験的な展開もすすめました。
今後もEV（電気自動車）の導入や空調やエアコンの室外機からの電力使用量削減など、ハード面の充実と、職員や組合員への環境問題に関する課題共有などソフト面の充実を併せてすすめていきたいと考えています。

2021年度に使用した資源の量

使った資源

車両燃料（ガソリン換算）110.5万ℓ	ガス（施設）3.0万㎥	ドライアイス 4,691t
電気　705.8万kWh	水　3.1万㎥	OA用紙　132.5t



排出したCO_2

4,622t

車両燃料 2,564t
電気　1,991t
ガス（施設）67t

廃棄物

一般廃棄物	103t	食品残さリサイクル
産業廃棄物	35t	8.4t（福祉事業所）

※CO_2排出量算出時の基礎排出係数等の詳細は16～18ページをご参照ください。
※上記以外に車両の排気ガス、冷凍冷蔵庫のフロンガス、ドライアイス等を排出しています。

組合員との約束

パルシステム東京では、最高意思決定機関「総代会」での議決に基づいて事業活動を行っています。下記は2022年6月に開催された「総代会」で、総代（組合員の代表）により議決された内容（抜粋）です。

第30回通常総代会2号議案（事業活動方針）

2022年度　地球環境

1．再生可能エネルギーの普及と資源循環型社会を目指し、持続可能な社会づくりに向けた環境配慮活動を推進します。

（1）エネルギー政策の見直しをすすめ、脱原発運動（核燃料サイクル、ＡＬＰＳ処理汚染水海洋放出反対等）や温室効果ガス削減に向けた活動をすすめます。また、パルシステムグループと連携し、商品や物流資材のプラスチック削減及び３Ｒの推進により資源循環型社会を目指します。

（2）くらしの視点でパルシステム東京独自の環境活動や学びの場を地域に広げます。身近な環境活動（有害化学物質削減、石けん運動、生物多様性保全、森林保全等）を支え、組合員活動と連携した取り組みをすすめます。

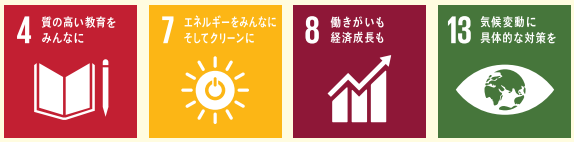
（3）事業における環境配慮活動をより効果的にすすめるために、各部署の運用管理手法※を見直し、役職員の環境意識の向上をはかります。

※運用管理手法
パルシステム東京では、環境保全及び関連法規への対応や職員教育などに取り組むため、独自マニュアルにもとづいた環境マネジメントシステム（以下、EMS）の運用を行っています。現在のマニュアルは2009年の制定以降、大幅な改定をしていないため、エネルギー政策の見直しと合わせて、気候変動対策など中長期的な課題を見据えた見直しをすすめています。「運用管理手法」とは、EMSにおける職員の関わり方や目標設定、また、廃棄物の分別やリユースリサイクル手順など多岐にわたる手法のことで、抜本的に見直すことでEMS全体の最適化と社会的責任を果たしていくことを目指します。

4つの活動テーマとSDGs

組合員と約束した方針を、以下の4つのテーマに置き換えて環境活動を推進しています。

1. 地球温暖化対策と脱原発



パルシステムでんきの推進、省エネ推進、脱原発、エネルギー政策学習会、市民電力団体との連携など

2. 石けん利用普及



石けん商品の利用推進、石けん学習会・出前講座、香害学習会、サンプル配付など

3. “3R”とプラスチック問題



3Rの推進、プラスチックごみ総量削減の取り組み、有害化学物質削減の取り組み、3R施設見学会など

4. 生物多様性保全と森林保全



いなぎめぐみの里山での取り組み、生き物モニタリング、在来種保護など

パルシステム東京エネルギー政策

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を理念として掲げ、脱原発と再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。「六ヶ所再処理工場の本格稼動の中止を求める運動」などさまざまな活動をすすめてきました。
２０１１年１２月に策定されたエネルギー政策は、３つの柱で構成されています。持続可能な社会をめざし、地域社会の再構築を支援し、自然の力を最大限に活かす再生可能エネルギーへの転換をすすめています。

Ⅰ．生協自らが消費者として選択する

(1)地球温暖化防止を大きな目標に掲げ、省エネルギーをすすめCO_2と温室効果ガスを削減します。
(2)脱原発の立場で再生可能エネルギーを選択し、将来的には自給率100％をめざします。

Ⅱ．生協自らが事業者として行う

(1)地球温暖化防止をめざし、CO_2を削減し、省資源、省エネルギー型の事業を行います。
(2)生協事業の使用電力を再生可能エネルギーに転換します。
(3)環境に配慮し、再生可能エネルギーを活用した生産や輸送をコンセプトにした新たな商品開発を実現します。
(4)組合員の家庭における再生可能エネルギーの推進やCO_2削減を実現します。
(5)生産から消費、廃棄にいたるエネルギーのプロセスに総合的に関与し、環境負荷を低減する具体的な事業モデルに取り組みます。
(6)地域社会や生産者と連携し、安全で生産コストの安い再生可能エネルギーに効率よく転換する仕組みづくりを支援します。
(7)最新エネルギー情報の収集と調査に努め、事業への有効な導入の検討を行います。

Ⅲ．生協自ら地域・社会に運動をおこす

(1)生産者や社会へ働きかけ再生可能エネルギーによる日本のエネルギー自給率の向上を率先してすすめます。
(2)国のエネルギー政策の転換をめざし、国や自治体に対し情報公開の要求や政策提言を行い、安全性、経済性の観点からも原子力発電の停止を求めます。
(3)確実かつ有効な情報等をわかりやすく提供し、地域社会や家庭での省エネ活動支援や暮らし方の見直し提案を広げます。

エネルギー政策の推進

地球温暖化対策と脱原発、パルシステムでんきの推進

2013年当時、パルシステム東京の子会社だった㈱うなかみの大地で、事業所向けの新電力事業を立ち上げました。2016年の電力小売全面自由化を受けて組合員への供給をスタートさせ、2022年3月末時点ではパルシステムグループ全体で49,346件の組合員が利用しています。私たちは、今後もグループ全体で再生可能エネルギーを中心とした電気「パルシステムでんき」を推進していきます。「パルシステムでんき」は、東京都が公表した2018年度の販売電力量に占める再生可能エネルギー比率（FIT電気も含む）で、東京都内の新電力事業者約150社中2位という好成績を収め、2020年5月の電気新聞（業界紙）に掲載されました。

■エネルギー政策にまつわる主な経過

2011年
- エネルギー政策を理事会にて承認

2012年
- エネルギー政策に基づく脱原発運動検討委員会の設置を決定
- 新電力事業設立のため子会社「㈱うなかみの大地」が新電力の届出、経済産業省が承認

2013年
- やまがたグリーンパワーのバイオマス発電をメイン電源にして新電力事業を開始し、17事業所を再生可能エネルギーに転換　FIT電気（再エネ）率59.2%
- 小水力発電や太陽光発電施設へ組合員交流の開始

2014年
- ㈱うなかみの大地による電力供給31事業所　FIT電気（再エネ）率79.3%まで拡大

2015年
- 「産直でんき」を商標登録
- 電力供給36事業所 FIT電気（再エネ）率66.9%

2016年
- 電気供給を1都8県のパルシステムグループ生協組合員へ展開することを目的に「㈱パルシステム電力」（旧社名：㈱エコ・サポート）へ事業を移譲
- 10月から組合員に電力供給開始（発電産地応援プランA＝従量電灯Bに対応）
- 電力供給56事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）率75.8%
- 組合員契約数1,692件（パルシステム東京983件）

2017年
- 電力メニューに発電産地応援プランCを追加（従量電灯Cに対応）
- 大手電力会社と同じ料金に改定
- 電力供給79事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）率79.2%
- 組合員契約数7,195件（パルシステム東京1,825件）

2018年
- 電力供給104事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）率78.8%
- 組合員契約数20,765件（パルシステム東京7,854件）

2019年
- 電力供給105事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）率72.3%
- 組合員契約数32,513件（パルシステム東京12,342件）

2020年
- 電力供給112事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）+再エネ率89.6%
- 組合員契約数42,294件（パルシステム東京15,018件）

2021年
- 電力供給115事業所（グループ）、FIT電気（再エネ）+再エネ率83.2%
- 組合員契約数49，346件（パルシステム東京16,194件）

■2021年度 パルシステム東京が提出した意見書

提出日	意見書名	宛先
5月4日	エネルギー基本計画見直しに対する意見	経済産業省意見箱
9月28日	第6次エネルギー基本計画（案）に対する意見（パブリックコメント）	経済産業大臣

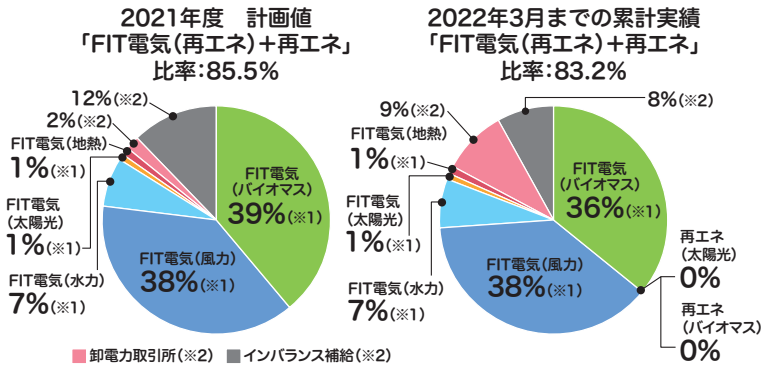
2021 年度　（株）パルシステム電力関連の報告

■供給規模

供給事業所数	グループ 115 事業所
組合員件数	グループ 49,346 件（パルシステム東京 16,194 件）
総電力供給量	219,062,000kWh（前年比 117.7%）
FIT電気（再エネ）＋再エネ率	83.2%（前年比 92.8%）

■取扱量実績

種類別電源量	合計（kWh）
FIT 電気（バイオマス）	125,532,092
FIT 電気（風力）	133,309,353
FIT 電気（水力）	22,523,041
FIT 電気（太陽光）	4,955,810
FIT 電気（地熱）	2,181,895
再エネ（バイオマス）	30,771
再エネ（太陽光）	53,612
その他（東電など他社融通）	58,421,876
仕入れ電力量合計	347,008,450



※1 この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客さまも含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、CO_2 が排出されないことを始めとする再生可能エネルギーとしての価値を訴求するにあたっては、国の制度上、非化石証書の使用が必要とされています。当社が販売する FIT 電気は、CO_2 排出量について火力発電なども含めた全国平均の電気の CO_2 排出量を持った電気として扱われます。

※2 この電気には、水力、火力、原子力、FIT 電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。当社の 2020 年度の CO_2 排出係数は、0.252kg-CO_2/kWh（基礎排出係数）、0.486kg-CO_2/kWh（調整後排出係数）です。

再エネ（バイオマス）、再エネ（太陽光）の発電量は1%未満のため0%表記としています。

■発電所の状況

2021年度は『株式会社南部町バイオマスエナジー』が発電産地の仲間入りをしました。
発電所のある山梨県南部町は県内最大規模の森林組合を有する「木とともに生きてきた町」です。
森林整備で木材を切り出す際に出てしまう1メートルほどの丸太は山にも放置できず、使い途もほとんどありませんでしたが、発電所ができたことで発電の材料に使えるようになったことから、地域における持続可能性が高まりました。

＜南部町バイオマスエナジー＞


発電所周辺の様子



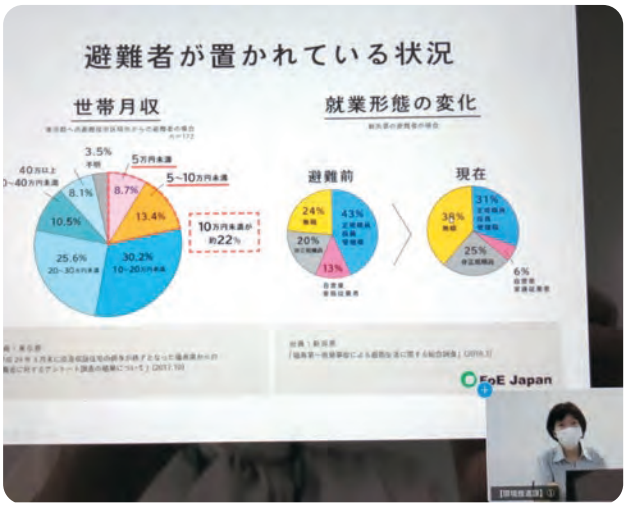
発電所内

脱原発に関する取り組み

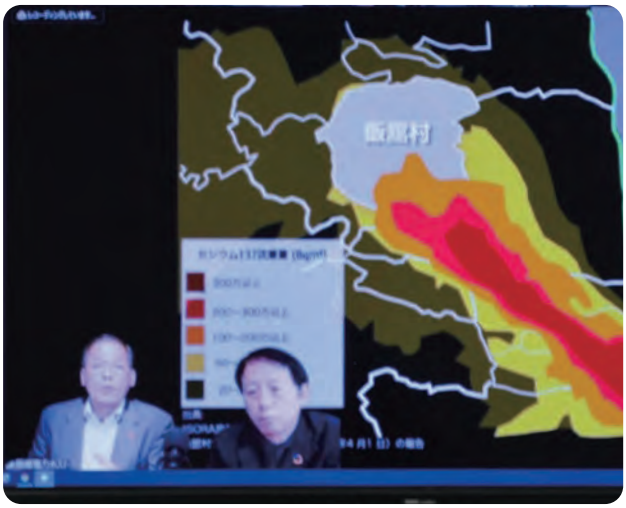
原子力に頼らないエネルギー政策への転換を目指し、様々な団体と連携して脱原発運動に取り組んでいます。組合員向け脱原発学習会の開催や、原発に反対する生協や団体で構成する「阻止ネット（「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク）」への参画、代々木公園での大規模イベント「さようなら原発首都圏集会」への参加、意見書の提出など、内外への積極的な発信により運動を広めています。

■2021年度 脱原発関連企画

開催日	企画名 / 主催者名	参加人数
6月26日	3.11 から 10 年－終わらない原子力災害 講師：満田夏花氏（国際環境 NGO　FoE Japan 事務局長 / 理事）	24人
8月31日	飯舘電力（株）　バーチャルツアー 講師：千葉訓道氏・米澤一造氏（飯舘電力株式会社）	39人
10月23日	さようなら原発 10・23 オンライン集会＋シンポジウム	1人
11月13日	子どもの甲状腺検診にて、パルシステムでんきのおすすめ	24人
2022 年 3月26日	さようなら原発首都圏集会 （新型コロナウイルス感染症の影響により 4 月 16 日に延期）	－



3.11から10年－終わらない原子力災害（6月26日）


飯舘電力（株）バーチャルツアー（8月31日）

■2021年度 パルシステム東京が提出した意見書・署名運動

提出日	意見書名	宛先
6月4日	「ALPS 処理汚染水の海洋放出」の閣議決定に抗議します	内閣総理大臣　菅　　義偉氏 経済産業大臣　梶山　弘志氏
10月～12月	「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」の取り組み	内閣総理大臣 経済産業大臣 東京電力ホールディングス株式会社 代表者

地球温暖化防止に関する取り組み

世界の年平均気温は1880年～2012年の間に0.85℃上昇しており、その要因については人間活動の影響が主である可能性が極めて高いとされています。人間活動の影響とは、化石燃料を燃やしたり、森林等の伐採によって吸収源が減少することで、温室効果ガスが増えてしまっている状態を指します。地球温暖化は、夏の猛暑日の増加だけではなく、発達した低気圧や強い台風の発生、海の酸性化による生態系の変化など、気候全体が変化し、さまざまな影響を及ぼします。

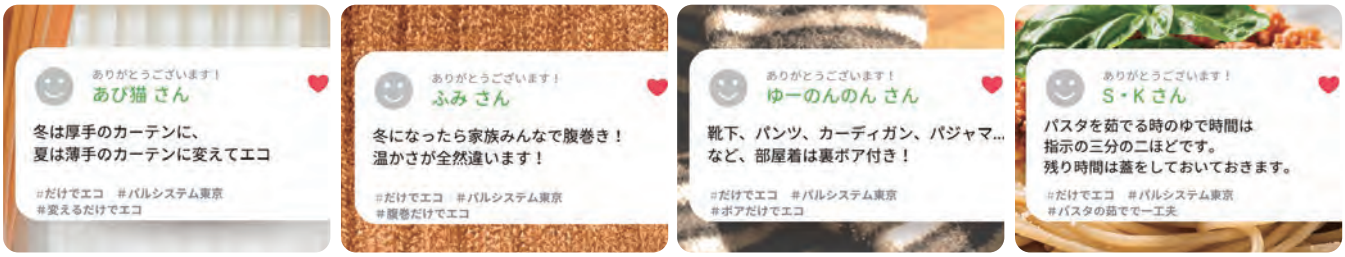
パルシステム東京では家庭の省エネアドバイザー活動を2009年より継続しているほか、Twitterを活用した取り組み、「冬の省エネ“ちょこっと”投稿キャンペーン　#だけでエコ」を行いました。



「石炭火力発電」と「森林伐採」のイメージ

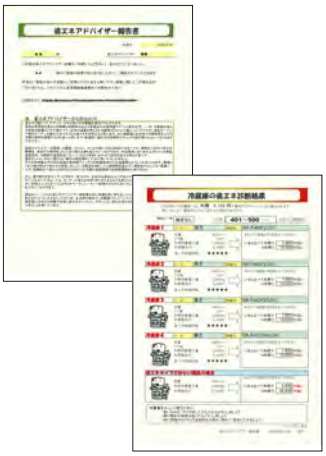
冬の省エネ“ちょこっと”投稿キャンペーン　#だけでエコ

1月24日～2月28日の期間、パルシステム東京公式Twitterを活用した、冬の省エネの手法を気軽に投稿できるキャンペーン「#だけでエコ」を開催しました。おうちの中でのひざかけや湯たんぽの利用など家庭で取り組んでいるちょっとした省エネの工夫について、のべ73件の投稿をいただきました。



キャンペーンに寄せられた投稿の一部

家庭の省エネアドバイザーによる活動



「家庭の省エネ診断」の報告書の一部（サンプル）

パルシステム東京は「家庭の省エネアドバイザー制度」により、組合員の省エネアドバイザーを養成し、組合員家庭の省エネな暮らしを提案しています。2018年度まで東京都と連携して活動し、2019年度からは東京都の同制度終了に伴い、パルシステム東京独自で活動を展開しています。具体的には、「家庭の省エネ診断」の独自ツールを用いることで、簡単なアンケートに答えるだけで家のCO_2排出状況や主要家電の買い替え効果が分かる仕組みを活用しています。「家庭の省エネ診断」の受診者からは、冷蔵庫の温度設定やテレビの輝度（画面の明るさ）の変更等、家庭の省エネのポイントが分かって良かったと好評をいただいています。

今後も多くの組合員に省エネを提案していきます。

- 省エネ診断の実施件数
  2021年度：13件　2009年度～2020年度累計：のべ588件
- 省エネアドバイザー　登録５名（2022年３月時点）

石けん利用普及

パルシステムグループでは、合成洗剤の取り扱いはなく、すべての洗浄剤において、自然界で分解されやすい石けんをおすすめしています。工場や家庭からの排水や化学肥料・農薬などによる水質汚染は自然の生態系を破壊し、地球の水循環に大きな影響を与えています。また、川や海に放流された水はめぐりめぐって水蒸気や雲、雨となり、また私たちの暮らしの水へと戻ってきます。命の水を蘇らせ、次の世代へきれいな水環境を残すためにも、パルシステム東京は石けん生活を提案していきます。



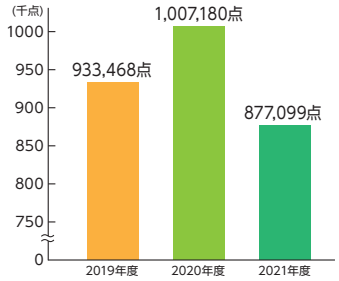
パルシステムのオリジナル石けん
「me・gu・ru [めぐる]」シリーズ

石けん商品の供給点数

2021年度の石けん商品の供給点数は89.1%と前年度を下回りました。理由としては、2020年度の新型コロナウイルス感染症の影響による異常な受注が収まったためと考えられます。また、組織が一丸となっておすすめする運動商品として位置づけている、プライベート・ブランド商品4点※の供給点数も前年度比は98.2%でしたが、2019年度比は105.2%でした。

※2021年度の運動商品は、me・gu・ru [めぐる] ハンドソープ、YUMYUMベビーソープ、やっぱり石けん！洗濯用粉石けん、粉石けん水ばしょうの4点です。

石けんの供給実績



石けん利用普及に関する取り組み

石けん出前講座

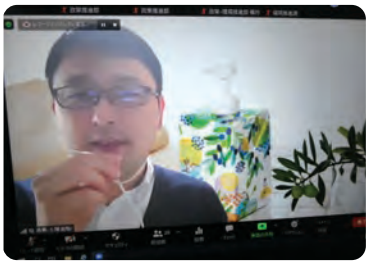
組合員の石けん講師が、委員会や職員向けに石けんの良さや上手な使い方を伝える学習会を行っています。
石けんをテーマにした委員会企画《10企画、参加者：103人》



組合員講師による石けん出前講座

メーカー講師によるオンライン講座

12月17日、堀清貴氏（太陽油脂株式会社）を招き、オンライン学習会「地球の未来にまじめな石けん講座」を開催。2021年9月新発売の「地球の未来にまじめなボディソープ」の商品説明や、動画による液体石けんの製造工程の解説、塩水を使用した実験による生分解性の説明などを講義いただきました。《参加者：23人（うち組合員19人）》
詳しくは次のページもご覧ください。



メーカー講師によるオンライン講座（12月17日）

やりたくなる！カラダにいい石けん洗濯

2月14日、茂木孝夫氏（白栄舎クリーニング代表）を招き、「合成洗剤と石けんの違い」をテーマにしたオンライン学習会「やりたくなる！カラダにいい石けん洗濯」を開催。
家庭でできる石けんを使った洗濯術をメインとして、合成洗剤による健康被害や環境影響に関する話や、香害による健康被害のことなど講義いただきました。
事前質問のみならず、講義中にも数多くの質問をいただいたことから、石けん利用への関心の高さが再確認できました。
《参加者：137人（うち組合員130人）》



やりたくなる！
カラダにいい石けん洗濯
（2月14日）

生活用品にもエシカルを
地球の未来にまじめなボディソープ

2021年9月よりパルシステムのプライベート・ブランドの石けん商品として新登場した「地球の未来にまじめなボディソープ」。
原料は産直100%にこだわっており、コロンビアの持続可能なパーム核油やスペインのエキストラバージンオリーブオイルを使用しています。
保湿成分も顔が見えるフェアトレードのマスコバド糖（黒砂糖）を使用しています。香りは柑橘の産直産地「無茶々園（むちゃちゃえん）」（愛媛県）の甘夏の精油です。使用感の良さ・エシカル消費にこだわったボディソープです。
また、容器には希少なバスルーム用の紙パックを使用しており、水でぬれた場所でも使えます。また、その容器を用いることで従来のプラスチック製ボトルと比べ、プラスチック使用量の削減につながっています。
容器をパルシステムで回収し、トイレットペーパーやティシュペーパーへのリサイクルを実施することで、資源循環型社会の実現に貢献しています。


地球の未来にまじめなボディソープ

CERTIFIED SUSTAINABLE PALM OIL RSPO CERTIFIED
RSPO-1106245
認証された持続可能なパーム油の生産に貢献している商品です。

2021 Product JUDGE SUSTAINABLE COSMETIC AWARD
サスティナブルコスメアワード2021「審査員賞」「SDGs賞」をW受賞

使い終わったら、切り開いて、乾かして、リサイクル


①中を軽くゆすいで着面をはがす


②平らに押しつぶして口栓を切り取る


③ふちをはがしてひらく、良く洗って乾かす

せっけん運動ネットワークの取り組み

せっけん運動ネットワークは、前年より延期となっていた「2020シャボン玉フォーラムinしが」の開催を2021年５月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。
７月、シャボン玉月間の行政訪問は実施されました。24都道府県26団体によって取り組まれ、378自治体（前年度：328自治体）より石けん運動を応援する主旨の首長メッセージをいただきました。パルシステム東京の組合員は清瀬市長よりメッセージをいただきました。
シャボン玉月間のポスターは、生活クラブ生協・愛知の組合員が考案した「見直そう！せっけんパワー　変えよう！私と地球の未来」のキャッチコピーで25作品が作成され、生活クラブ生協都市生活の組合員の作品が選ばれました。



2021年シャボン玉月間ポスター

有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた３Ｒ活動の推進

プラスチックごみ、特に直径５mm以下のマイクロプラスチックが環境に与える影響が世界的な問題となっています。パルシステム東京は、「プラスチック問題出前講座」と題して、全国各地の砂浜で採取したマイクロプラスチックごみの実物サンプルなどを用いたデモンストレーションや、体験プログラムを組み合わせた学習会をパルシステム東京の組合員向けに開催しました。

有害化学物質削減・廃棄物削減に関する取り組み

プラスチック問題出前講座

2020年度より一部エリアを対象に新たに開始した、委員会向けのプラスチック問題出前講座は、10月より全エリアに展開し、2021年度は11委員会より申込があり、7回開催しました。
環境担当役職員による講義や実際に砂浜で採取したマイクロプラスチックのサンプルを用いた体験学習を実施しました。講義では、海洋プラスチック問題と合わせて、陸域からの流出の可能性についても考察しました。地域や自治体によって廃プラスチックの分別状況が異なるため、参加者にとっても生活のさまざまな場面での気付きを喚起する機会になりました。また、同出前講座はオンラインでも開催しています。


プラスチック問題出前講座

河川のプラスチックごみ問題の専門家による講演会

10月16日、東京理科大学理工学部土木工学科教授二瓶泰雄氏を講師に招き、「身近なプラスチック汚染　～家庭・市街地から河川、海へ～　＃未来へつなげ2030」を開催しました。≪参加者：46人（うち組合員33人）≫
また、12月16日には二瓶氏の研究テーマである「マイクロプラスチック等の川ゴミによる河川水環境の汚染実態の解明」調査にパルシステム東京役職員６名が同行させていただき、調査の様子を見学しました。



身近なプラスチック汚染～家庭・市街地から河川、海へ～
#未来へつなげ2030（10月16日）

DVD「プラスチックごみ　～日本のリサイクル幻想～」の貸し出し

NPO法人アジア太平洋資料センター（PARC）制作のプラスチック問題を啓発するDVDの貸し出しを行いました。19委員会142人が視聴しました。

組合員による二酸化窒素（NO_2）測定

大気汚染の測定を通して身近な環境問題を知り、改善していくことを目的としています。2021年度より、組合員主体で取り組むことが決まりました。
・ 6月：配付カプセル数168、回収数164、有効数161、回収率97.6%
・12月：配付カプセル数159、回収数157、有効数154、回収率98.7%

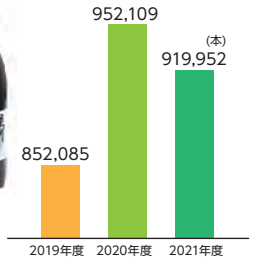

調査見学の様子

2021年度の3R（リデュース・リユース・リサイクル）に関する取り組み

資源循環型社会を実現するために、商品作りや組合員参加を通して、3R（リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用））の優先順位で取り組みを進めています。パルシステムでは限りある資源を大切に使い、100%国内でマテリアルリサイクルをしています。

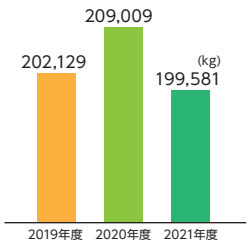
リユースびんの回収量





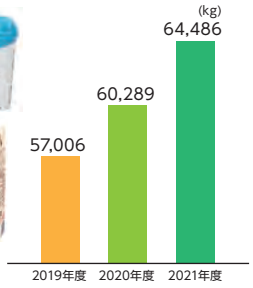
紙（牛乳）パックの回収量





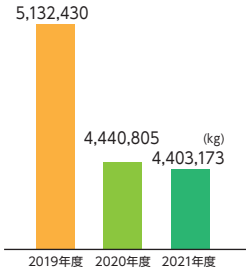
ABパック・ヨーグルトカップの回収量





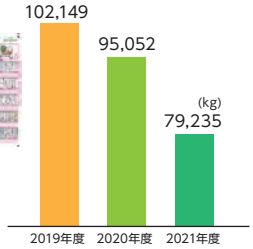
商品カタログの回収量





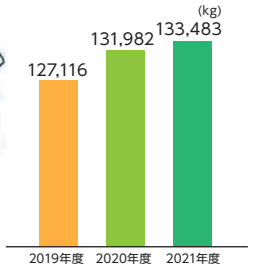
注文用紙の回収量





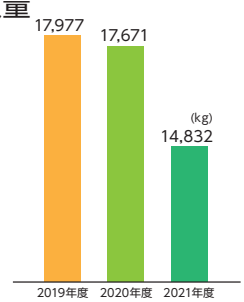
資源プラスチックの回収量





米袋の回収量

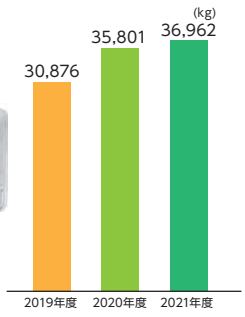




米袋が回収できることを組合員に周知するために米袋にシールを貼るなどの対応をしています。

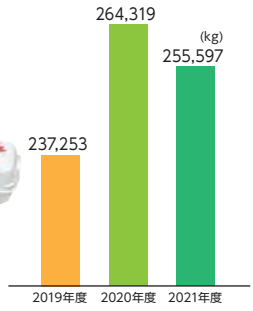
お料理セットトレーの回収量





たまごパックの回収量





回収率アップに向けた取り組み

配送センターが年度ごとに設定する環境目標について、7センターが「リサイクル資材の回収率アップ」を掲げ、チラシの配付や組合員への声かけ活動などに取り組みました。また、パルシステム東京では対象品目がパルシステムに返却されることで、確実に国内での再生品化（マテリアルリサイクル）がなされます。引き続き、組合員への声かけ活動や広報媒体を有効活用し、回収率の向上に努めます。



生物多様性保全と森林保全

生物多様性保全は、地球温暖化や有害化学物質など、さまざまな環境課題と密接に関係しています。特に地球温暖化と併せて、都市特有のヒートアイランド現象により顕著な温暖化の状態にある東京では、生物相を正確に把握することが難しくなっています。パルシステム東京では、在来種保護を目的とした環境保全企画の開催や、いなぎめぐみの里山における竹林保全の取り組みなどを継続的に行っています。

生物多様性保全・森林保全の取り組み

須田真一氏とともに「生き物モニタリング」

これまで継続してきた「市民参加の生き物モニタリング調査」でもおなじみの、東京大学総合研究博物館研究事業協力者の須田真一氏を講師に、東京のチョウの生態をテーマにしたオンライン学習会「“昆虫一家”の2代目に聞く　～世界的に生き物が豊かな大都市・東京の今～　#未来へつなげ2030」を開催しました。(6月19日)《参加者：79人》また、10月2日には、いなぎめぐみの里山（東京都稲城市）にて「いなぎめぐみの里山　子ども生きモニ」を開催し、秋に見られる昆虫を採集・観察しました。《参加者：10家族26人》

※2009年以来、中央大学・東京大学・パルシステム東京により協働で継続してきた「市民参加の生き物モニタリング調査」は主に体制変更に伴い2020年度末で一旦終了し、2022年度現在は現存の調査員が写真の投稿を行うにとどまっています。



“昆虫一家”の2代目に聞く ～世界的に生き物が豊かな大都市・東京の今～ #未来へつなげ2030（6月19日）



いなぎめぐみの里山　子ども生きモニ（10月2日）

いなぎめぐみの里山　竹材を用いた工作企画

10月30日、里山の竹材を利用した初のオンライン工作企画として「いなぎめぐみの里山オンライン散策（1部）」と「リモート竹食器作り体験（2部）」を開催しました。画面越しに講師（認定NPO法人JUON NETWORK）の説明を聞きながら、竹皿・おちょこ・とっくりを製作しました。
《参加者：1部15組、2部13組》



12月4日、「いなぎめぐみの里山の竹林保全とミニ門松づくり」と題して、参加者それぞれにより、思い思いの門松を作製しました。都内にある自然豊かな里山の保全のため、竹材の活用をすすめ、自然を知る機会の拡充をはかりました。《参加者：6組13人》

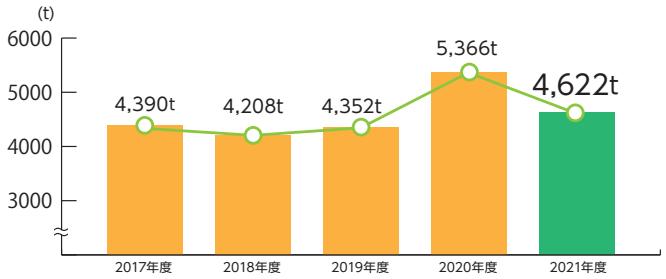


いなぎめぐみの里山の竹林保全とミニ門松づくり（12月4日）

事業活動における資源の使用と排出の状況

2021年度のCO_2排出量は4,622tで前年より744t減少しました。新型コロナウイルス感染症対策は継続しつつも、全事業所LED化やCO_2冷媒導入への取り組みをしたことも削減要因となっています。2022年度は営業活動再開の取り組みもより本格的になっていきます。新たな施策も考えながら引き続き削減できるように工夫をしていきます。

CO_2排出量の推移（2017年度～2021年度）



㈱パルシステム電力基礎排出係数

2020年度　0.000366 t -CO_2/kWh（2020年度実績）
2021年度　0.000252 t -CO_2/kWh（2021年度実績）

参考＜東京電力エナジーパートナー㈱＞

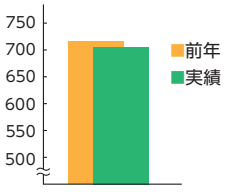
2020年度　0.000457 t -CO_2/kWh（2020年度実績）
2021年度　0.000447 t -CO_2/kWh（2021年度実績）

※電気の排出係数は環境省・経済産業省公表より（株）パルシステム電力の基礎排出係数を用いています。
車両燃料と施設ガスの排出係数は前年度と同じ係数です。

年度	排出量	総事業高	排出量/総事業高１億円当たり
2017年度	4,390 t	742億	5.92 t
2018年度	4,208 t	752億	5.60 t
2019年度	4,352 t	769億	5.66 t
2020年度	5,366 t	913億	5.88 t
2021年度	4,622 t	891億	5.19 t

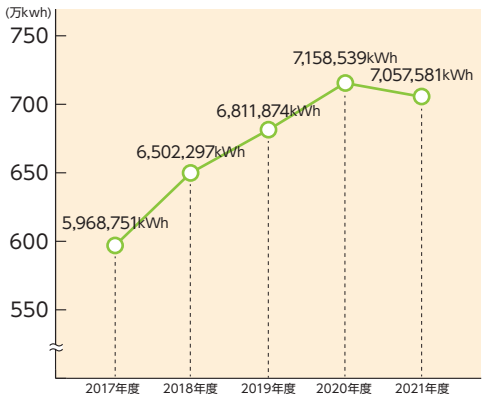
電気の使用量

●2021年度
前年 7,158,539kWh
実績 7,057,581kWh



CO_2換算 1,991t
排出係数 0.000252t

●電気使用量の推移



配送センターの太陽光発電状況／年【自家消費用】

大田センター …… 2,263kWh
多摩センター …… 2,821kWh
江戸川センター …… 3,819kWh
足立センター …… 108,442kWh
昭島センター ……65,475kWh
八王子センター ……57,730kWh

■電力マネージャー試験導入

9月、足立センターで電力マネージャーを試験導入しました。エアコンがデマンドの設定を超えないように自動調整する装置で電力需要ピーク時の調整に役立ちます。


足立センター電力マネージャー

■CO_2冷媒の導入

冷媒ガスの中でも地球温暖化係数の低い冷媒方法で、江戸川センターと大田センターで導入しました。特に大田センターは既存の冷蔵・冷凍設備の稼働を停めずに切り替える工夫をした全国の生協初の試みとなりました。


江戸川センターCO_2冷媒冷設

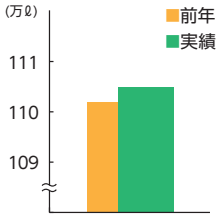
■LED照明の更新

2022年3月に第2中野陽だまりの入れ替えが終わりました。これで全事業所のLED入れ替えが終了しました。2022年度は非常用照明や看板など細かな部分の入れ替えも実施していきます。


第2中野陽だまり食堂LED照明

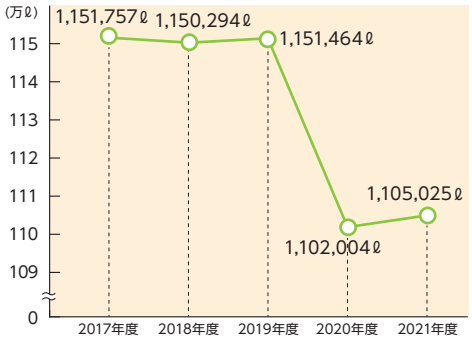
車両燃料の使用量（ガソリン換算）

●2021年度
前年 1,102,004ℓ
実績 1,105,025ℓ



CO_2換算 2,564t
ガソリン換算係数 0.00232t

●車両燃料使用量の推移



■燃料別の使用量(ℓ)

	種別	2019年度	2020年度	2021年度
車両燃料	ガソリン	724,033	735,929	745,779
	軽油	151,494	162,096	175,087
	LPG	349,390	250,842	209,174
	CNG	1,492	964	6,567

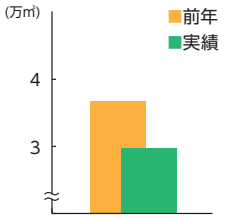
■パルシステム東京のCO_2排出量の約7割は車両燃料からです。2022年度は車両燃料対策としてパルシステムグループでEV（電気自動車）などの検討会を立ちあげ、CO_2削減のために出来ることを探っていきます。



昭島センター電気自動車
EVの軽自動車（軽バン）を6月に昭島センターで1台追加導入（計6台）

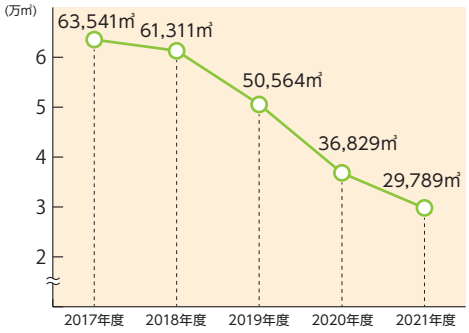
ガス（施設）の使用量（都市ガス換算）

●2021年度の使用量
前年 36,829㎥
実績 29,789㎥



CO_2排出量 67t
都市ガス換算係数 0.00224t

●ガス（施設）使用量の推移



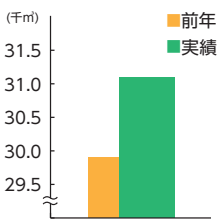
■2020年11月の大規模修繕時に大田センターのガスヒートポンプエアコン（ガスを利用した空調）から電気モーターヒートポンプエアコン（電気を利用した空調）に入れ替えたことで前年の排出量をより下回ることができています。



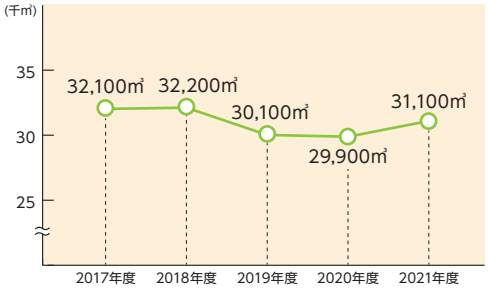
大田センター
電気モーターヒートポンプエアコン

水の使用量

●2021年度
前年 29,900㎥
実績 31,100㎥

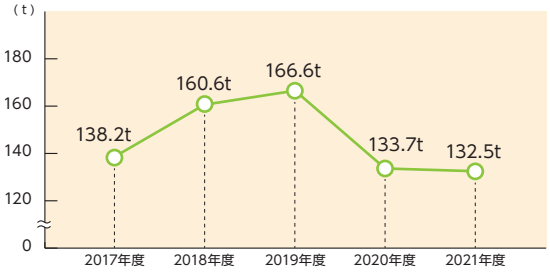


●水の使用量の推移



■主な使用用途は、車両の洗車と福祉事業所の入浴などで、利用者の増加に伴い使用量も増えてきています。
その他に、夏場のシャワー利用や、エアコンの室外機に水をかけて冷やすことで稼働効率を上げ、電気消費量を抑える取り組みで水を消費しています。

OA用紙発注量

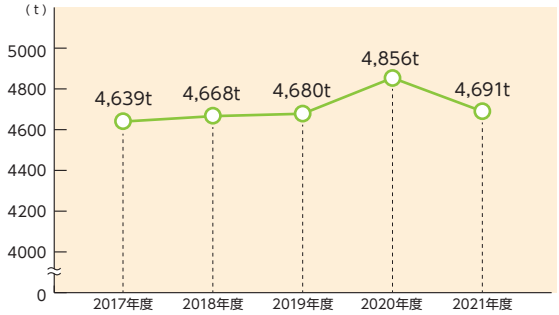


■オンラインやハイブリット形式による会議が継続されているため、2021年度もOA用紙の使用量が減少しています。



オンライン会場の様子

ドライアイスの使用量



■冷凍庫内の冷凍用蓄冷剤凍結スペース新設などは特にありませんでした。



ドライアイス納品場所

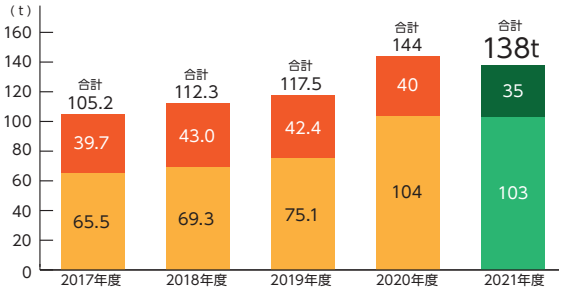
廃棄物量の推移

■2021年度実績

138t

■ 産業廃棄物
■ 一般廃棄物

ミックスペーパーとの区分けについてセンターと共有をしたことも廃棄物減少要因となりました。



リサイクル食品残さ
(中野・第二中野・府中・足立陽だまり)

年度	廃棄物量
2019年	5.3t
2020年	5.7t
2021年	8.4t※

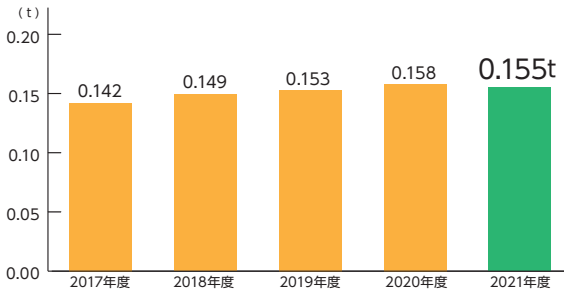
※併設の「ぱる★キッズ」「グループホーム」を含みます。

原単位あたりの廃棄物量の推移

(原単位：
廃棄物量 / 総事業高1億円)

■2021年度実績

0.155t



年度	廃棄物量	総事業高	廃棄物量／総事業高1億円当たり
2017年度	105.2 t	742億	0.142 t
2018年度	112.3 t	752億	0.149 t
2019年度	117.5 t	769億	0.153 t
2020年度	143.8 t	913億	0.158 t
2021年度	138.0 t	891億	0.155 t

リユース・リサイクル商品一覧

パルシステムでは、お届けしたもののうち、特定の容器・包装は毎週回収し、資源循環と廃棄物の削減に取り組んでいます。リユース・リサイクル対象商品やカタログに表示している「Rマーク」が目印です。
リユースすることが難しい商品カタログや容器包材なども、パルシステム独自の回収・リサイクルの仕組みの運用に取り組んできました。回収された資源はパルシステムのリサイクルセンターで選別・圧縮などの処理をして再生工場へ送られ、新しい商品やカタログ、再生原料などに生まれ変わります。

〈リユースびん一覧〉



詳細はこちら！

〈リユース・リサイクル対象〉



リユースびん



トマトといちごの外箱



紙パック・ABパック



ヨーグルトカップ



たまごパック


「お料理セット」トレー



米袋・プラスチック袋



商品カタログ


注文用紙


「地球の未来にまじめなボディソープ」の紙容器

パルシステムグループの「プラスチック排出総量削減」の取り組み

2017～2019年度の「プラスチック排出総量削減」3ヶ年取り組みを2020年度も継続し、商品容器包材プラスチックの❶「リデュース（使用量抑制）」、❷「環境負荷の低い材質への切り替え」、❸「リサイクル回収強化」を進めました。2021年度は、新たに青果における小分け品のプラ削減やバッグシーラーの紙化、折り畳みコンテナなどの物流資材に再生プラスチックを使用するなど、範囲を拡大して取り組みました。今後は商品容器包装（青果、生活用品ＰＢを含む）の2030年度排出総量を、2016年度の水準に抑えることを目指し、取り組みを継続します。

■プラスチック削減に取り組んだ商品（一例）

＜軽量化＞

包材のサイズ変更



しめさば（国内産）

留め具の廃止



しっとりもっちり食パン6枚切

＜材質の変更＞

包材の一部に再生プラスチック使用



直火炒めチャーハン（産直米）



産直バジルのジェノベーゼソース

＜その他の取り組み＞





◆飲む国産野菜！（1日分）（AB）200ｍｌ

◆キャロっとさん にんじんくだものジュース（AB）200ｍｌ



紙ストロー化

2020年11月に、2段式紙ストローに変更。2商品で年間3.9トン（2019年度の数量から試算）プラスチック削減につながります。また、紙の原料は適切に資源管理された「FSC認証」の木材です。

※『キャロっとさんミニ』（100ｍｌ）は紙ストローではありません。

◆プラ削減マーク（2021年1月～）

組合員の商品選択の一助となるよう、2017年度以降に容器包装や付属品（ストローなど）のプラスチック削減に取り組んだ商品に表示しています。2021年度は68商品を追加し、合計323商品となりました。

トピック 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（2022年4月1日施行）

地球環境に影響を与えるプラスチックごみを削減し、プラスチック製品の設計製造から廃棄、そしてリサイクルについてそれぞれの家庭での対策が定められました。



1. 設計製造段階

プラスチック製品の環境配慮設計に関する指針に則した環境配慮製品を国が初めて認定し、消費者が選択できる社会へ



2. 販売・提供段階

小売・サービス事業者などによる使い捨てプラスチックの使用を合理化し、消費者のライフスタイル変革を加速



3. 排出・回収・リサイクル段階

あらゆるプラスチックの効率的な回収・リサイクルを3つの仕組みで促進

参考：環境省HP　プラスチックに係る資源循環に関する法律案閣議決定について　https://www.env.go.jp/press/109195.html

2021年度環境関連広報物一覧



■５月号 Vol.27　見開き
「オンライン連続講座 / 未来を考えるプロジェクト」

エコ&ピースナビゲーター

2017年より発行している環境活動に関する情報紙。
2021年度は4回、
様々なテーマで発行しました。

※「平和と国際連帯」または「復興支援」のテーマで作成した紙面については、本誌には掲載しておりません。



■５月号 Vol.27　裏面
「“昆虫一家”の２代目に聞く
～世界的に生き物が豊かな大都市・東京の今～」



■ 6 月号 Vol.28　表面
「6 〜 7 月は環境キャンペーン月間です。」



■ 6 月号 Vol.28　裏面
「募集中の取り組み紹介、石けん動画を公開中!、ほか」



■ 9 月号 Vol.30　表面
「身近なプラスチック汚染」



■ 12 月号 Vol.31　表面
「竹食器作りで森を守ろう」

2021年度環境活動に関する監査所見

2021年度環境監査委員長　佐藤　穂貴
弁護士

2021年もコロナ禍による感染拡大の波が度々発生し、商品の配送や福祉事業所において人との交わりが不可欠な貴組合は、難しいかじ取りを引き続き強いられた。そのような状況下でも、本業の伸長とともに環境マネジメントシステムの運用の正常復帰を果たす等、貴組合の環境活動は大いに評価できるものだった。

脱炭素社会を目指す取り組みとして、再生可能エネルギーを電源とするパルシステム電力の普及は今年度も順調に進み、再エネ率を80％台と高水準で維持しつつ安定経営されている。配送における二酸化炭素排出量削減が特に期待されるところ、配送品の保冷にはドライアイスから蓄冷剤への切り替えが順次進められ、複数の配送センターでの太陽光発電の自家消費と相まって排出量削減に寄与している。配送そのものについてはルートの効率化等に工夫が見られる。今後は営業車のみならず配送車両にもＥＶを段階的に導入する等、抜本的な改善も期待したい。なお自然冷媒を用いた冷設機器への切り替えも計画的に進んでいる。

2022年4月からプラスチック資源循環促進法が施行されたように、プラスチックの使用量削減も大きな課題となっている。パルシステムグループ全体で「プラスチック排出総量削減取り組み」を掲げ活動しているが、供給量の拡大と両立するには商品設計段階での省プラ・脱プラが欠かせない。利用者の声を聴き商品設計の更なる見直しにつなげていただければと思う。容器等の３Ｒの推進にも引き続き期待する。

環境マネジメントシステムは、非常時の手順も新たに定めつつ、現在は設定目標の実現を目指す通常の運用に戻って取り組まれている。環境監査委員会による現地監査は前年同様リモート実施となった。この間、内部監査は実地で行なわれ続けているため一定のチェック機能は果たされているものの、2022年度以降は内部監査をより洗練させつつ、外部監査は是非実地で実現いただくことを願う。

最後に、2012年より環境監査に携わらせていただいて10年が経過しこの度任期満了となった。先人の環境監査委員や貴組合の職員、理事等の皆さま方に多くの教えを乞いながら全うできたことに深く感謝申し上げたい。この間に貴組合における働き方の多様化を見ることができたことは喜ばしい発見だった。人々の健康と安全な暮らしの実現を目指す活動は世の中の支持を得ているものである。貴組合がその先駆者としてますます発展することを心より祈念申し上げる。

環境監査委員　中山　勝博
ISO審査員

2021年度のパルシステム東京の環境活動は、「新型コロナウイルス感染症」の影響もあったが6月から例年通りの実施となった。

その中で重点項目として、杉原　学　専務理事が以下の2点をあげて活動を始めた。

再生可能エネルギーの普及と資源循環型社会を目指した活動をすすめます。
（1） 脱原発と地球温暖化防止のため、パルシステム電力の保有を広げ、再生可能エネルギーの普及に向けた取り組みと省エネ活動を推進します。
（2） 安全で持続可能な社会と自然環境を守るため、原発の稼働と核燃料サイクルに反対します。

その重点項目に対し目標を設置し、
（1） では、パルシステムでんきの保有件数目標：16,200件に対し16,194件と達成率99.96%とほぼ達成した。
目標達成のための行動として、2021年3月～4月、配送センターでは、パルシステム電力の社員を講師に招き、パルシステムでんきの学習会を開催した。（6センター実施）その後残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により学習会は一時中断している。
（2） では、「エネルギー基本計画見直しに対する意見」を提出やさようなら原発オンライン集会などへの参加を行っている。

以上の状況から重点項目に関して、新宿本部・各センター全体の行動から達成できていると思われる。
しかしそれ以外の活動である、内部監査や各センターでの環境目標達成のための活動では、自ら決めたルールが守られていないことが若干散見された。これは環境マネジメントシステムがまだ実業務とは一体となっておらず環境マネジメントシステムのための業務となっているからと考えられ、早期に環境マネジメントシステムが実業務の一側面になることを期待したい。

環境監査委員会：環境マネジメント活動に関する諮問機関。環境管理最高責任者がパルシステム東京の環境マネジメント活動の状況を報告し、評価や改善意見、要望、提案を受け、環境マネジメント活動の一層の向上をはかることを目的として設置されている。

環境監査委員　松本　久仁子
パルシステム東京　組合員

新型コロナウイルスの勢いは収まることがありませんが、向き合い方に少しずつ変化が現れ、日常生活への規制も少しずつ緩和され始めてきました。

しかし、ロシアによるウクライナ侵攻が突如として開始され、改めて平和とはと考えるようになりました。また、エネルギー価格の高騰により生活へ影響も出始めてきました。

2021年度から環境監査に携わらせていただきました。環境に対してものの見方が変わったと実感しております。監査は、前年同様にコロナ禍であるため、現地監査ではなく写真や資料をもとに行いました。限られた情報での監査となりもどかしさはあります。監査対象となったセンターでは、職員全体へ環境マネジメント教育の徹底や職場環境の向上など積極的に行っている様子を伺うことができました。また、リサイクル品に関しては、回収率を上げる取り組みを行っています。ただ、回収品目によっては回収率が低い品目があり、センターのみならずパルシステム東京全体で回収率アップの施策を考える必要があります。そして、CO_2削減にむけて、EV車の導入、冷設機器をCO_2冷媒へ更新するなど施設のガス使用量は削減されておりますが、電力の使用量もさらなる削減ができるようにしていただきたいです。

パルシステム東京は、40年以上せっけん運動に取り組んでおります。2021年10月「せっけん運動ネットワーク」から利用前年比向上（2019年－2020年比較）で表彰されました。環境活動は、内容も多岐にわたり、継続的な活動が求められます。学習会などはオンライン企画を充実させることで、多くの組合員が環境に対して学ぶ機会を増やすことができます。今後も多くの組合員の見る目を養う活動に期待しています。

2021年度環境監査委員　尾崎　真希
パルシステム東京　組合員

2021年も新型コロナ感染は落ち着くことなく、2022年1・2月実施の環境活動監査は、昨年同様オンラインで実施されました。コロナ禍であっても、コロナ前と変わりない安心・安全なサービスを提供しつつ、環境負荷の少ない事業活動を継続するには大変な努力を要しますが、2021年度も多くの環境方針重点項目で目標値を達成していることが確認できました。職員の皆さんの地道な努力の成果です。お互いを労い、今後も支え合って活動を継続してほしいと思います。

パルシステムの環境方針は多くのSDGs（持続可能な開発目標）と重なります。プラスチックごみ総量削減は世界の重要課題です。パルシステムは、プラスチック容器・包装の削減に積極的に取り組んできました。紙製のストローなど使いにくいと感じる方もいますが、世界中で取り組んでいる課題であることを意識し、脱プラスチックに向けてこれからも更なるリデュースに期待しています。

資源循環型社会を目指した活動のうち、有害化学物質削減と３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みは今後も力を入れていくべき項目です。様々な学習機会や活発な広報活動が報告されていますが、リユース・リサイクル品の回収率はセンターごとに差があります。回収率をアップさせたセンターの事例を皆で共有し、効率的に全体の回収率をアップすること、また、回収率が下がったケースでは地域性なども考慮した上で対策を立て、事例として全体で共有できれば、長期的な回収率アップに繋がると思います。

情報の共有は、気持ちの共有にも繋がります。センター内部のみならずパルシステム全体で情報共有することで目標に向けて進む力になると思います。

ポストコロナでも、コロナ期間に見直された運用手順や優先順位を活かし、次なる目標に向かって着実に、環境に優しく人に優しい事業活動を展開してほしいと願っています。

環境監査委員　宮﨑　みどり
パルシステム東京　組合員

「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり
一人ひとりの行動で、持続可能な地域社会をつくり、世界の平和につなげます

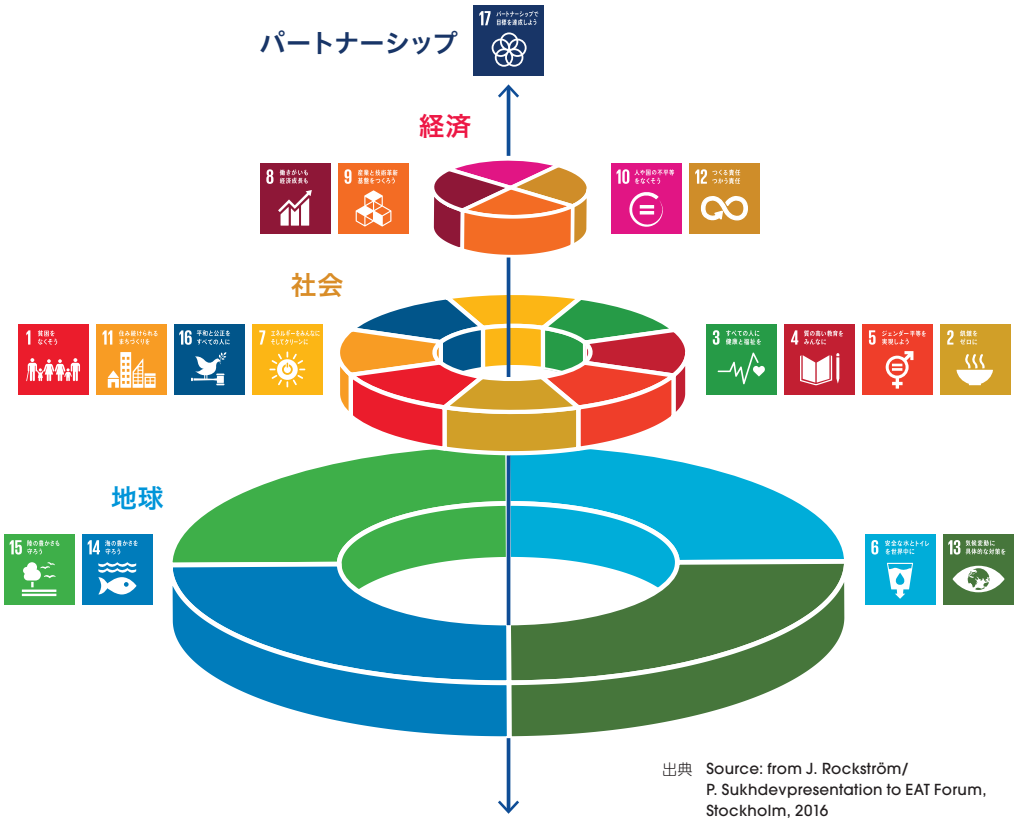
これは、2021年度から始まったパルシステム東京2030ビジョンです。
このビジョンの“持続可能な地域社会”の観点から、環境に配慮した取り組みが数多く行われました。
「くらしをキリカエル」取り組みでは、プラスチック削減の商品や再生・植物由来プラスチックの商品、食品ロス削減の商品などが続々と登場したり、キャンペーン等で様々なリサイクル促進が行われ、CO_2削減への切り替えを呼びかけました。温暖化に関する出前講座やオンライン企画では、待ったなしの状況に問題意識を共有しました。
再生可能エネルギーの普及にむけては、パルシステム電力への切り替えを推進し、保有件数は2022年3月末時点で16,194件でした。原発関連では、アルプス処理水を海洋放出する政府の方針に対する意見書や反対の声を示す署名が提出されました。報道では先ごろ政府が放出を決定したとのことですが、今後も議論され続けることを希望します。
オンライン実施となった事業所の環境監査では、多岐にわたるリユース・リサイクルの回収品の分別や廃棄物処理の点で感じることがありました。混入がないよう良い結果が出ている事業所では、確認を大切にしたり、資源の循環の理解を深めています。“急がば回れ”の意識は、日常でも心に留めておきたいと感じました。
組合員も、家庭から回収品を正確に出すことで資源の再利用率が上がることを念頭に、トレーやパック類、ビン類などの回収に今後も是非ご協力ください。
全体に触れる所見とはなりませんでしたが、以上で環境活動所見といたします。

環境監査委員　山本　夏実
パルシステム東京　組合員

2021年、現地に伺えない監査が2回目となりました。写真やデータなどで確認することによりメリットもありデメリットもありますが、自分の配分で資料を確認することができ充実してきたと感じています。現地へ伺いたいですが、ハイブリッドな方式で監査をすることにより、監査に参加する人のすそ野を広げるように感じます。
普段の生活ではレジ袋をもらわず、ストローは紙のものが多くなり、社会が方針転換をすれば変わっていくのだなと感じます。
今まではもらうこと、使うことに疑問が少なかったように感じます。しかし、社会の波によってもらうのか使うのか、改めて皆が確認しあうようになり、気づかされました。
確認しあうというところでは、環境監査で「リユース・リサイクル」活動の、回収が伸び悩んだり異物混入が発生する事への改善の検証の際にも感じましたが、どうして?といった点での視点でとらえていなかったことに気づきました。
本当にそのやり方が良いのか、どうして浸透しないのか。監査にいらっしゃるパルシステム東京側の皆様は男性ばかりです。お互いが確認しあう、共感しあうということでは、今後は様々な人材同士での方針のすすめ方が望ましいのではと、感じました。
2021年のセンターの監査では、女性の活動長からのお話を伺うことができました。配送スタッフにも女性の方が増えてきているようなので、様々な役割で男性と女性が活躍できるようになることが、新たな気づきをもたらしてくれることと思います。
プラスチック削減・節電・リユース／リサイクル等環境のために家庭でできることは増えています。ただそれも家族の誰かだけが頑張るのではなく、家庭でみんなの問題ととらえていけるようになれば良いのではないかと思います。

～SDGsと協同組合～

国連や日本政府は、協同組合を「役割を果たすべき民間セクター」「連携するステークホルダー」と位置づけ、市場原理だけで解決できない課題への社会的機能として期待しています。



出典　Source: from J. Rockström/ P. Sukhdevpresentation to EAT Forum, Stockholm, 2016

「経済」は「社会」の上に成り立ち、また「社会」は健全な「地球（環境や資源）」の上に成り立っています。
「持続可能な開発」への課題を解決するためには、経済優先の社会から一度立ち止まり、地球環境を大切にする「パートナーシップ（行政・企業・NPO 等）」との連携を目指すことが必要です。



生活協同組合パルシステム東京

発　行　生活協同組合パルシステム東京　政策・環境推進部　環境推進課
〒169-8526 東京都新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7F
TEL 03-6233-7642

ホームページ　パルシステム東京　検索
https://www.palsystem-tokyo.coop/

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C111730
VEGETABLE OIL INK
このカタログは環境に配慮しFSC®認証および植物油インキを使用しています。

発行日　2022 年 7 月 31 日